

会員及びお仲間の近況報告

編集部

タイトルにありますように、会員及び千里山の思い出を共有するお仲間の近況報告と同時に、千里山及びそのお仲間の関連記事も併せて報告します。

熊谷英彦氏 平成二十五年四月

石川県立大学学長に就任

氏は、昭和十五年、満州国新京特別市のお生まれで、千里第二小学校の卒業ではないものの、吹田第一中学校をご卒業。茨木高校―京都大学農学部農芸科学科をご卒業後、そのまま大学に残られ研究を続けられました。京都大学の助教授―教授を歴任され、京都大学名誉教授に。

昨年、**日本学士院賞**を受賞されました。

なお、千里山会・会員の二十七回生 熊谷克彦氏は英彦氏の弟さんに当たります。

二十四回生 河合 和子様の近況報告

千里山会誌では忘れかけていたさまざまな記憶がよみがえって参ります。

思い出深いのは木島先生ご指導の子供オーケストラで、合奏する楽しさを教えていただいたことでした。その後、近くのお母さん達数名で始まった合奏に、ギターで加わり、35年。いつしかメンバーも40名のマンドリン・ギターアンサンブルになっていました。全員主婦なので、長く続くとは考えてもいませんでしたが、やはり皆も「合奏は楽しい」のひと言につきますようです。

これも木島先生のお陰と、指揮棒を全身で振っておられた様子を思い出しながら、感謝しております。

千里リニューアルタウンの現況（新聞記事より）

編集部

今年の六月二日、日経新聞の朝刊に標記の内容の特集が載りました。（記事の内容は、次頁縮小版参照）

ご覧になった方も多いと思いますが、ここに紹介させていただきます。

戦後復興から高度成長期にかけて、有史以来の人口移動で大都市は急膨張し、住宅難は飢餓的上程であった。そのような状態にある三大都市圏で先頭を切ってニュータウン建設に及んだのが千里ニュータウンである。

しかし、例外的な成功例と言われた千里も、高度成長期が終わると人口が減り始め、住民の年齢構成が偏る人工都市の高齢化率は大阪府や全国平均をも上回って上昇する。不測から飽和への変化の速さは日本の戦後史の縮図だ。

前吹田市市長坂口善雄さん（NPO吹田まちづくり研究所理事長）は99年の市長就任以来、ニュータウンの再生に取り組んだ。

07年には大阪府などの関係機関の手で、担い手の人づくりに踏み込んだ「千里ニュータウン再生指針」が策定された。

千里の課題は、日本の課題でもある。千里の町づくりはようやく始まったばかりである。

ニュータウンの先陣を切ったように、リニューアルタウンでも先陣を切る。再生がうまくいくか否か、その後の多摩ニュータウン等も見守っている。明日の我が身であるから

日曜に考える

2013.6.2(日)

高度成長から少子高齢の成熟社会へ、日本の戦後史は変化の速い大きな特徴だ。千里ニュータウンは時代の課題を凝縮し、建設から再生へ先頭を走り続けている。

大阪都心から地下鉄で20分の千里中央には新しいランドマークの高層ビルが建つ。最初の入居地区、佐竹台では公営住宅の建て替えが終わり、民間分譲マンションの売り出しの波りが翻る。南千里の千里ニュータウン情報館では先月まで昨年開催の「町びらき50年」の写真展が開かれ、各種イベントや「市民まちづくりフォーラム」の様子が紹介されていた。「千里リニューアルタウン」の現状だ。

「播磨の大風呂敷」

「それは役所の仕事か。土地を賣るのか」。1956年秋、大規模住宅開発案が諮られた大阪府富田会議。初代民選知事、赤間文三の発言を末席で聞いた山地英雄(86)は開発事業に携わり、後に企業局技監を務め、今も千里ニ

経済史を歩く

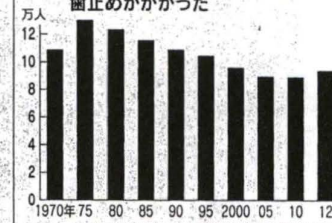
—55—

千里ニュータウン誕生(1962年) 初の住宅都市開発



1962年撮影=大阪府公文書館提供

千里ニュータウンは人口減に歯止めがなかった



現在は公営住宅の建て替えなど再開発が進む



■似て非なる新都市 千里ニュータウンは吹田・豊中市域にまたがる計画人口15万人、面積1600haの住宅都市。小学校の校区単位で近隣住区理論を採用、道路、ドワンで人口集中の受け皿になった。

人口増の受け皿へ総力戦

ニュータウンに住んでいる。中央官庁出身のブレインによる構想は、関東大震災の復興計画「後藤(新平)の大風呂敷」になぞらえ、知事室長の名前を冠して「播磨の大風呂敷」と呼ばれたという。戦後復興から高度成長期、有史以来の人口移動で大都市

は急激に、住宅難は飢饉の状態だった。国は50年に住宅金融公庫、55年に日本住宅公団を設立して供給を促し、自治体も公営住宅の建設を増やすが追いつかない。大阪府は千里丘陵の住宅都市と臨海コ

「ヒナト」の正面作戦を立て、独立採算の企業局を新設し、西独マルク債発行で得た資金も活用して日本初のニュータウン建設に乗り出す。前例のない都市開発は日本の総力戦だった。学会は欧米

の都市計画理論に学んで計画づくりに協力し、国は土地の強制収用の根拠となる新住宅市街地開発法の制定などで後押しした。61年の起工式では左藤義詮の知事挨拶が反対派集会にかき消される事態も生じたが、62年の町びらきから10年足らずでピーク時約13万人の住宅都市が完成する。60年代以降、三大都市圏でニュータウン建設が続いた。隣接地での万博開催の70年に出版された「千里ニユー

東谷睦子先生の米寿のお祝い

二十七回生・当時六年花組一同

先生はご自身が千二小学校九回生のご卒業で、ご主人である勝司先生共々千二小の教壇に立たれておられました。会員の中にもお世話になった方は多いでしょう。

このたび、睦子先生の米寿のお祝いとして、先生にお世話になった一同がお祝いの言葉の冊子を作り、贈りました。

東谷睦子先生

米寿

おめでとうございます

2013年



平成24年11月8日 南千里公園にて

1956年3月卒業 六年花組一同

林裕三氏（二十七回生） 八重を語る

伊勢中央ロータリークラブ 3月の例会で、林裕三氏が、『山本八重から新島八重へ』

私らしく生きる』と題して、講演されました。その時の内容が、ロータリークラブの会報に紹介されていきましたので、下記に掲載します。

内容は今回、同名で会誌に載せて頂いておりますので、そちらを参照してください。

氏は、趣味として母校 同志社大学 新島研究会に所属し、現在まだお仕事をされながらの活動であり、今年、NHK大河ドラマで『八重の桜』が好評放映中ということもあり、地元伊勢は元より、東京等、あちこちで講演をされています。



会報第 146 号

平成 25 年 4 月吉日

〒516-0079 伊勢市大世古 2-9-11
伊勢国際ホテル 1 階
伊勢中央ロータリークラブ事務所内
TEL. 0596-27-0072
FAX 0596-27-5996
会長 森正宏 幹事 中村裕昭

第 147 回（3 月度）例会 平成 25 年 3 月 13 日（水） 12:30～14:30

◆ 会長挨拶及び理事会の報告

- ① 4 月は都合で現金場が利用できないため 5 月の予定と入れ替え小旅行（大垣方面）を計画する。
- ② 本日は現在 NHK で放映中の大河ドラマ「八重の桜」に因んで、山本八重（後の新島八重）に関する講演を外部講師林裕三氏にお願いした。

◆ 外部講師（林裕三氏）による講演 （講師のプロフィール）

昭和 4 2 年同志社大学機械科卒、同年神鋼電機（株）入社、平成 1 9 年退社現在に至る。趣味として母校同志社大学新島研究会に所属し現在活動中。藤原会員の大学の後輩に当たる

（講演テーマと内容の要約）

テーマ：『山本八重から新島八重へ 私らしく生きる』 以下まとめた原稿は菅沼会員による。



幕末から昭和初期にかけて時代の変動の中で奮闘と生き抜いた一人の女性の話である。

・弘化 2 年、会津藩砲師範の父山本権八、母佐久の娘として生まれ、兄覚馬と弟三郎がいる。

男勝りな活発な少女時代で 4 斗の米俵を 4 回上げ下げする力持ちであった。父権八と兄覚馬から砲術指南を受け、更に山本家に居候になっていた川崎正之助（後に尚之助）にも砲術を習うと共に博識の尚之助にあこがれ 2 0 歳の時に尚之助と結婚する。

・慶応 4 年、上洛していた弟三郎が鳥羽・伏見の戦いで負傷し、その後江戸会津藩邸で死亡。

・明治元年 8 月に会津城下の戦いが始まると、弟三郎の遺品の袴を着け髪を切って男装し『私は三郎だ』と名乗り官軍との戦いに加わった。近代的な砲術一家育ちで、日新館での先